

W I N G E S S A Y

DENTAL WING Co.,LTD

—2017年 9月号—

☆年々暑さが増すような感じがする夏です。今年のお盆は珍しく雨模様でしたね。暦はもうすぐ9月です。最近、春と秋が短く、暑さと寒さの季節感が大きくなっているような気がします。暑さ寒さも彼岸までとありますが、あとひと月足らずで秋のお彼岸です。残暑厳しい毎日ですが、心も身体も澆漑としていたいものです。どうぞご自愛下さい。

☆先月号で、人口の問題を掲載させていただきました。この問題は、すべての業界の問題でもあります。人口の将来推計に基づいて書かれた「未来の年表」という本が出版されています。恐らく、あまり実感がない問題ですが、近未来的にはかなりのスピードで変化することが記されています。いくつかご紹介させていただきます。

少子高齢化という言葉は、すっかりお馴染みになりましたが、殊に少子化はかなりのスピードで推移しています。昨年の出生数は98万1000人で、はじめて100万人を割りました。あと50年もしないうちに55万人程度まで減少すると言われます。

では、これからを見ていきましょう。2017年、今年ですが65歳以上の人口で男性は1499万人、女性は1962万人で女性全体の人口の30.1%で、日本の女性の3人に1人は高齢者ということになります。高齢化社会の主役は、女性ということになります。(世の男性諸氏、肩身が狭くなるかも。)あと2年後の2019年。IT技術者が不足すると予想されています。IT分野の技術者は、この2019年の92万人程度をピークに、2030年には85万人程と推計されています。最近、AI(人工知能)が様々な分野の仕事を奪うといわれていますが、2030年頃には、そのIT技術者の不足規模が約60万人程になると見込まれています。

2020年はどうでしょう。推計人口では、この2020年に50歳以上の人口が、0歳から49歳までの人口をついに追い越し、女性の2人に1人は50歳以上という世の中です。女性の中年パワー炸裂ということでしょうか。(いまでさえパワー炸裂なのに、想像を絶する世の中か・・・)これから6年後の2023年になりますと、労働人口の高年齢化で職場にベテラン社員が増えることになります。つまり、単純に人件費の増大が問題視されます。経営を圧迫する一因になるのは間違いありません。

そして、あと13年後の2030年。内閣府の報告書「地域の経済2016」によりますと、2030年には、全国の80%にあたる38道府県で、区域内の供給力で需要を賄いきれない生産力不足になると予想されています。少子化が進み、若年層が都会への流出が加速され、地方での生産年齢人口(14歳から64歳)が激減するからです。このことは、所得税や法人税など税収不足になるということですから、地方全体の存続に関わるということです。

主なものをご紹介させていただきました。お若い方は、これからの大きな期待や夢もあるでしょう。しっかり邁進して欲しいものです。そうでない方は、「もう歳だから」なんて考えずに、主役は、俺だ！私だ！の気持ちで頑張ってくださいね。こんな私でよろしければ、一緒に未来について語り合いませんか？可笑しく楽しく、そしてまじめに・・・

(ご紹介させていただきました「未来の年表」は、講談社現代新書として出版されています。)